

3 課

7月18日

イエスの目で人々を見る



安息日午後 7月11日

暗唱聖句

イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。(マタイ4:19、口語訳)

イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。(マタイ4:19、新共同訳)

今週の聖句

マルコ8:22~26、ヨハネ4:3~34、ヨハネ1:40、41、マルコ12:28~34、ルカ23:39~43、使徒言行録8:26~38

今週のテーマ

イエスは、魂を勝ち取る名人です。イエスが人々に働きかけられた仕方を観察することで、私たちは、イエス・キリストによる救いを人々に知らせる方法を学びます。エルサレムのにぎやかな通り、ユダのほこりっぽい道、ガリラヤの草に覆われた丘の斜面をイエスとともに旅しながら、尋ね求める魂に彼がどのように王国の原則を明らかにされたのかを、私たちは見いだすのです。

イエスは、あらゆる人をご自分の王国に勝ち取ることができると考えておられました。神の憐れみの目で1人ひとりをご覧になったのです。イエスはペトロを、乱暴で大口をたたく漁師としてではなく、福音の大説教家としてご覧になりました。またヤコブとヨハネを、短気で熱くなりやすい激情家としてではなく、情熱的に神の恵みを宣傳伝える者としてご覧になりました。マグダラのマリア、サマリアの女、出血が止まらない女の中には、純粋な愛と受容を渴望する思いをご覧になりました。イエスはトマス^{あむ}を、ひねくれた疑い深い人としてではなく、正直に疑問を抱く人としてご覧になりました。ユダヤ人であろうと、異邦人であろうと、男であろうと、女であろうと、十字架上の強盗、百人隊長、悪霊に取りつかれた人であろうと、イエスは、神から与えられた彼らの潜在的可能性を認め、救いの目で彼らをご覧になったのです。

イエスが二つの段階を踏んで行われた奇跡が、聖書全体の中に一つだけあります。ベトサイダの目の不自由な人をいやされたときです。この物語は、現代のキリスト教会にも時間を越えた教訓を与えています。それは、1人ひとりの信者を用いてだれかをイエスのもとへ連れて来る神のご計画を具体的に説明しているのです。聖書は、「一行はベトサイダに着いた。人々が一人の盲人をイエスのところに連れて来て、触れていただきたいと願った」（マコ8：22）とはっきり記しています。ここで重要な二つの言葉は、「連れて来た」と「願った」です。目の見えない人は、自力では来られませんでした。友人たちが彼の必要を理解して、連れて来たのです。彼には大きな信仰がなかったかもしれませんが、友人たちにはありました。彼らは、イエスが目の不自由なこの人をいやしてくださると信じたのです。

新約聖書には、これとは異なるいやしの奇跡で、イエスによってなされたものがおよそ25あります。その半数以上で、身内や友人たちが病人をいやしていただくためにイエスのもとに連れて来ています。多くの病人は、信仰を持っているだれかが彼らを連れて来なければ、イエスのところへ来ることはなかったでしょう。私たちの役割は、「紹介者」になって、人々をイエスのもとへ連れて行くことです。

マルコ8：22の中でじっくり考えるに値する二番目の言葉は、「願った」です。この言葉には、「嘆願する、哀願する、熱心に勧める」といった意味もあります。騒がしく荒々しい要求ではなく、穏やかで優しく静かな訴えを意味します。目の不自由な人の友人たちは、イエスがこの病人を助けたいと願っておられ、また彼を助ける力も持っておられると信じつつ、優しく訴えたのです。目の不自由な人には、イエスが彼をおいやしになれるほどの信仰はなかったかもしれませんが、友人たちにはありました。時として私たちは、ほかの人を自分の信仰の翼に乗せてイエスのもとへ連れて行かねばなりません。

問1 マルコ8：22～26を読んでください。なぜイエスは二つの段階を踏んで目の不自由な人をいやされたのだと、あなたは思いますか。この物語は、イエスの現代のあかし人としての私たちに、どのような教訓を与えていますか。

私たちも、人々がはっきり見えていないことがないでしょうか。時として私たちは、神の国の候補者としてではなく、ほやけてははっきりしない姿で歩く「木」のように人々を見ていないでしょうか。何が原因で、私たちは時として人々がはっきり見えないのだと、あなたは思いますか。

新しい目で1人ひとりを見るというのは、どういうことでしょうか。イエスはその手本となることによって、天の目で人を見る見方を弟子たちに教えられました。イエスの人間の見方は革新的でした。彼は、人々の過去の姿ではなく、人々がこれからなりうる未来の姿をご覧になったのです。人々と交わる際には、いつも相手を尊び、敬う気持ちを持って接されました。その接し方は、しばしば弟子たちを驚かせましたが、とりわけサマリアの女との交わりがそうでした。

『考古学研究聖書』は、ユダヤ人とサマリア人の関係について興味深い解説をしています——「サマリア人とユダヤ人の対立は、初期の頃にまでさかのぼる。列王記下17章によれば、サマリア人は、紀元前722年の捕囚後、アッシリアの王によって北イスラエルの地に強制移住させられたメソポタミア人の子孫である。彼らはヤハウエ礼拝に偶像崇拜の儀式を結びつけた」（『考古学研究聖書』1727ページ、英文）。このような偶像崇拜の儀式に加えて、ユダヤ人に対抗する祭司職を設け、対抗する神殿をゲリジム山に建てました。そのようなサマリア人との神学的違いを考えれば、イエスがサマリア経由でガリラヤへ向かうことを決められたとき、弟子たちは当惑したにちがいません。彼らは、イエスがあえて宗教的論争をされなかったことに驚きました。イエスは、受容、愛、赦しを切に求める彼女の心に直接訴えかけられたのです。

問2 ヨハネ4：3～34を読んでください。イエスはサマリアの女に、どのように近づかれましたか。キリストとの会話に、彼女はどのように応じましたか。この体験に対する弟子たちの反応は、どのようなものでしたか。イエスは彼らの見方をどのようにお広げになりましたか。

イエスをご自分の弟子たちや私たちに教えたいと望まれた永遠の教訓は、単純にこういうことです——「キリストの霊を持つ者は、神の憐れみの目ですべての人を見るのである」（『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』1892年6月20日、英文）。

文化や社会の影響のせいで、あなたはどのような人たちを蔑視したり、軽視したりしがちですか。なぜあなたの考え方を変えなければならないのですか。また、どうしたら変えることができますか。

ある人がこう言いました——「人生において、何かを始める場所は、あなたがいる場所しかない。なぜなら、出発点はほかにないからだ」。使徒言行録1：8で、イエスも同じ原則を強調して次のように言われました。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」

弟子たちに対するイエスのメッセージは、はっきりしていました。あなたがいる場所から始めなさい、神があなたを置かれた場所であかしをしなさいということです。より良い機会を夢見るのではなく、あなたの周囲にいる人たちから始めてください。神の目で、あなたの一番近くにある可能性を見つけるのです！

あなたは、この世で最も教養ある人、最も雄弁な人、最も才能豊かな人になる必要などありません。それらの賜物は、正しく用いられるならとても役に立つかもしれませんが、結局のところ、あなたに必要なのは、神と人々に対する愛だけなのです。もしあなたにあかしをする用意があるなら、神はそのための道を開いてくださるでしょう。

問3 ヨハネ1：40、41、6：5～11、12：20～26を読んでください。これらの聖句は、アンデレの霊的な視力と、あかしに対する彼の取り組み方について、どのようなことを教えていますか。

アンデレの体験は、私たちに多くのことを語っています。彼は自分の家族から始めました。まず、兄弟のペトロにキリストを伝えたのです。アンデレは少年と友好的な関係を築き、その結果、少年は奇跡の材料をイエスに差し出しました。またアンデレは、ギリシア人たちの扱い方を心得ていました。彼は神学を議論するのではなく、そのギリシア人たちの必要を感じ取って、イエスに彼らを紹介したのです。

効果的に魂を勝ち取る技術は、好意的で思いやりのある関係を築くことです。イエスを知らないかもしれない、あなたの最も身近にいる人を思い浮かべてください。彼らはあなたの生き方の中に、同情的で思いやりのある人を感じていますか。彼らはあなたの中に、彼らが切に望む平安や目的を見えていますか。あなたの生活は、福音の広告になっているでしょうか。イエスを伝えることによって、私たちは神のために友人をつくるのです。彼らはクリスチャンの友人となり、ゆくゆくは、私たちが聖書の真理である神の終末のメッセージを伝えるときに、セブンスデー・アドベンチストになるかもしれません。

イエスは難しい人たちと接する名人でした。言葉と行動の両方で、彼は受容を実践なさいました。彼らの関心事にきちんと耳を傾け、質問を投げかけ、徐々に神の真理を明らかにされました。イエスは、ひどくかたくなになった心の内なる願いに気づき、極悪な罪人の中にも潜在的可能性をご覧になったのです。彼にとって、福音の力が届かないところにいる人はいませんでした。イエスは確かに、「キリストのうちに救いをみいだすことができないほどどん底まで墮落した者はなく、またそれほど悪い人間はいない」（『希望への光』796ページ、『各時代の希望』上巻323、324ページ）と信じておられました。キリストは、私たちとは異なるレンズを通して人々を見、人間1人ひとりの中に、最初の創造時の栄光が残っているのをご覧になったのです。キリストは、人間がなりうる姿を理解させるために、彼らの思いを引き上げてくださいました。そして多くの人が、自分の人生に対するキリストの期待に応えようと立ち上がったのです。

問4 マタイ4:18、19、マルコ12:28~34、ルカ23:39~43を読んでください。ペトロとヨハネ、名前のわからない律法学者、十字架の犯罪人に対するキリストの訴えは、どういうところが似ていますか。これらの人たちへのキリストの接し方を研究してください。あなたには何が際立って見えますか。

どこへ行っても、イエスは霊的な可能性をご覧になりました。ありえない状況の中でも、神の国の有力な候補者を見いだされたのです。私たちはこのような能力を「教会成長の目」と呼びます。教会成長の目とは、イエスをご覧になったように人々を見る、訓練された感受性のことです。その感受性には、「教会成長の耳」も必要です。この耳は、私たちの周囲にいる人たちの暗黙の必要に耳を傾けることと関係しています。たとえ彼らがはっきり言いあらわさなくても、この耳は、自分が持っていないものに対する彼らの心の願いを聞き取るのです。

聖霊は人々の生活の中で働いておられますが、その働きにあなたがもっと敏感になれるよう主に求めてください。神がもうひとたびあなたに触れてくださり、あなたの信仰をほかの人に伝えるために日々目の前に与えられている霊的な機会を見いだせるよう目を開いてください、と神に祈りましょう。キリストをほかの人に伝えたいという意欲を、神に求めてください。そうすれば、あなたは生涯、最高に胸躍る旅をすることになるでしょう。人生がまったく新しい意味を持ち、これまでに味わったことのない満足感と喜びを、あなたは得るでしょう。魂のために働く者にしか、その働きがもたらす満足感はわかりません。

使徒言行録は、神の国を発展させるために、弟子たちが摂理による機会をいかに用いたかという物語であふれています。初代教会が内憂外患に直面しながらもいかに成長したかという興味深い記事が、この書の始めから終わりまで、書かれているのです。

例えば、Ⅱコリント2：12、13で、使徒パウロはトロアスでの経験を述べています。「わたしは、キリストの福音を伝えるためにトロアスに行ったとき、主によってわたしのために門が開かれていましたが、兄弟テトスに会えなかったため、不安の心を抱いたまま人々に別れを告げて、マケドニア州に出発しました」。神は、パウロがヨーロッパ大陸で福音を宣べ伝えるため、奇跡的に門を開かれましたが、きょう神によって開かれている門があしたには閉まるかもしれないということを、パウロは知っていました。機会をとらえ、可能性があると思えば、すぐにマケドニアへ向かって船出しました。

新約聖書の神は、開かれた門の神——私たちの信仰を伝えるために摂理による機会を与えてくださる神——です。使徒言行録全体を通じて、神は働いておられます。開かれた門は、町にも、州にも、国にも、とりわけ人の心の中にもあります。

問5 使徒言行録8：26～38を読んでください。これらの聖句は、フィリポが神の導きを素直に受け入れ、神から授かった機会に応じたことについて、どのようなことを教えていますか。

「光を求め、福音を受け入れる準備のできた人のところに、1人の天使がピリポを導いた。今日も天使たちは、聖霊に舌をきよめていただき、心を純化し高めていただく働き人の歩みを導くのである。ピリポに送られた天使は、自分自身でエチオピヤ人に働きかけることもできたが、それは神の働かれる方法ではない。神は人が同胞のために働くように計画しておられる」（『希望への光』1397ページ、『患難から栄光へ』上巻114ページ）。

もし私たちに聞こえる耳と見える目があるなら、真理の探究者に王国の真理を届けるため、私たちも見えない天使によって導かれることでしょう。

この物語の中で、いかに聖書が中心であるかに注目してください。また、この時、聖書を知っている人が詳しく説明することが重要であったことにも注目してください。私たちにとって、ここでの教訓は何ですか。

参考資料として、『患難から栄光へ』第11章「へだての壁を越えて」を読んでください。

私たちの周りにいる人たちは、だれもが永遠に続くものを探し求めています。イエスがそのことを適切に表現されたように、「収穫は多いが、働き手が少ない」（マタ9：37）のです。問題は、収穫に関してではありませんでした。イエスは神によって油を注がれた目で、弟子たちには反対者しか見えなかった場所に、多くの収穫をご覧になりました。この問題を解決するためのキリストの方法は、どのようなものだったのでしょうか。「だから、収穫のために働き手を送ってくださいるように、収穫の主に願いなさい」（同9：38）。その解決方法とは、収穫のある場所へわたしを送ってください、と神に祈ることなのです。

次のような祈りをささげてみませんか。「主よ、私はあなたの王国を発展させるために用いていただきたいと願っています。私の目を開き、あなたが日々私の前に与えてくださっている摂理による機会を見えるようにしてください。周囲の人たちに敏感でいられるように教えてください。希望と励ましに満ちた言葉を語り、日々私が接する人たちに、あなたの愛と真理を伝えることができるように助けてください」。もしあなたがこのような祈りをささげるなら、神はあなたの生活に何か驚くようなことをしてくださるでしょう。

話し合いのための質問

- ① あなたが接する人たちの中で、だれがまだ主を知りませんか。彼らにあかしをするために、あなたはどのようなことをしました（しています）か。あるいは、どのようなことをすべきですか。
- ② タルソスのサウ口について考えてみてください。ここにいるのは、想像する限り、まず回心しそうにない人です！ それにもかかわらず、どのようなことが彼の身に起きたのかを、私たちは知っています。私たちはこのことから、外見から人を即断してしまう危険について、何を学ぶべきですか。
- ③ サウ口の物語を踏まえるとき、私たちはマタイ7：6のような聖句をどう扱ったらよいのでしょうか——「神聖なものを犬に与えてはならず、また、真珠を豚に投げてはならない。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたにかみついてくるだろう」